

# 委員会活動

総務  
企画  
委員会

茨城交通湊線、コマツ茨城工場、日本原子力研究開発機構

## 大強度陽子加速器J-PARCの整備状況などを調査

はじめに、経営状況が厳しく存続が危ぶまれる茨城交通湊線の利用状況について、実際に勝田駅から阿字ヶ浦駅まで乗車して調査を行いました。

次に、常陸那珂港に隣接して立地し、1月から操業を開始した建設機械メーカー、コマツの茨城工場で、事業概要の説明を受け、その後大型ダンプトラックなどの生産施設を視察しました。委員からは、県内雇用創出の効果や規模拡張計画の有無、常陸那珂港や北関東自動車道の活用などについて、活発な質疑がありました。会社からは、「常陸那珂港から全世界に直接輸出できるようにしてほしい」という意見がありました。

最後に、日本原子力研究開発機構東海研究開発センターで、大強度陽子加速器 J-PARC (ジェイパーク) の概要説明を受け、その後、県が同施設内に設置する中性子ビーム実験装置の整備状況を含め施設全体を視察しました。委員からは、外国研究者の受け入れや企業が利用しやすい環境の整備、がん治療薬開発の可能性などについて、活発な質疑がありました。

※ J-PARC は、陽子を光速近くまで加速し物質に衝突させて、発生する中性子などを利用して原子・分子レベルで物質を見ることができる装置です。現在、平成 20 年度稼働に向けて整備が進められており、今後、最先端の科学技術の発展や新産業の創出などへの貢献が期待されます。



コマツ茨城工場（ひたちなか市）を視察

県環境放射線監視センター、原子力緊急時支援・研修センター、県立産業技術短期大学校

## 環境放射線の監視状況などを調査

環境  
商工  
委員会



環境放射線監視センターを視察

はじめに、ひたちなか市に4月に移転整備した茨城県環境放射線監視センターを訪れ、環境放射線の24時間常時監視システムや農畜水産物中の放射性物質の測定について説明を受けました。同センターは環境放射線監視の拠点施設で、緊急時には隣接する県原子力オフサイトセンターや原子力緊急時支援・研修センターと連携して環境放射線などの測定分析を行います。委員からは、原子力災害発生時における県災害対策本部と各施設との役割分担や連携について質問があり、県災害対策本部は、国、県、市町村、原子力事業者などの防災関係機関や専門家などが参集するオフサイトセンターと情報の共有を行うとともに、支援・研修センターからは、専門家の派遣や資材・機材の提供などの技術的支援を受け、国、市町村など関係機関と連携して災害対策を行うとの説明がありました。その後、隣接する原子力緊急時支援・研修センターを視察しました。

次に、茨城県立産業技術短期大学校を訪れ、新規の高校卒業者から社会人や身体に障害を持つ人など、ITのスペシャリストを目指すあらゆる人達に対し、幅広く県内の産業界に貢献できる即戦力となる人材を育成している当校の取り組みについて説明を受けた後、実際の教育訓練の様子や学生の作品などを視察しました。

保健  
福祉  
委員会

鹿行水道事務所鰯川浄水場、神栖済生会病院

## 神栖済生会病院の運営状況などを調査

鹿行水道事務所鰯川浄水場を訪れ、施設の概要説明を受けた後に、施設内の沈殿池や急速ろ過池など浄水処理の過程を順次視察しました。委員からは、水質管理の委託業者の契約方法、神栖市のヒ素問題の水道水への影響がないことの確認、また、渇水対策などについて、活発な質疑がありました。

鹿行地域の水道普及率は、鹿行広域水道用水供給事業の給水区域の拡大などに伴い、除々に伸びつつありますが、それでも77.5%と県全体の90.6%に対して低い状況です。

企業局では、水道水をペットボトルに詰めた「いばらき鹿行の水」を製造し、水道事業の広報・普及促進活動を展開していく予定です。

次に、平成17年3月に移転・開院した社会福祉法人<sup>監理</sup>済生会神栖済生会病院を訪れました。病院から施設概況、基本理念、運営状況、今後の整備計画などの説明を受けた後に、病棟内の視察を行いました。

委員からは、小児科医の不在問題をはじめ、医師不足の状況を打開する方策などについて意見交換が行われました。病院側からは、県・市町村と医療機関のコミュニケーションの重要性や、特に県の医師確保に向けた役割が重要である旨の意見がありました。



神栖済生会病院を視察